

式　　辞

本日ここに、全国納税貯蓄組合連合会創立 65 周年記念式典を開催するにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

ご来賓の皆様には、公務ご多端のにもかかわらずご臨席の栄を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

また、各連合会の役員はもとより、代議員、青年女性部協議会委員のご参加をいただき創立 65 周年記念式典を開催出来ますことに深く感謝申し上げる次第であります。

本日の式典の主要行事であります「納貯活動の実践発表」が行われました。6人の地区（署）連の会長から地元で実施している活動である「コミュニティーにおける納貯組合の活動」「中学生の『税についての作文』募集」「新規組合員の獲得」「青年部女性部の構築と活性化」「会費制の導入」、そして「これから納貯活動と役割」についてお話をいただきました。納貯活動の根幹の成功事例でありますので、非常に示唆に富んだ内容がありました。このような活発な活動が今後、全国に拡大していくば、納貯の活性化が進んでいくものと確信しました。

さて、納税貯蓄組合法が昭和 26 年 4 月に施行され、納税貯蓄組合は唯一の法制化された納税協力団体として、戦後復興に向けて、国、地方財政の確立のために、貯蓄活動を通じて租税の期限内納付活動を積極的に展開してまいりました。

そして、昭和 33 年 10 月、全国の連合会を包括して、全国納税貯蓄組合連合会が創立され、本年で 65 周年という記念すべき年を迎えることになりました。

その間、「納税道義の高揚」を旗印に自主納付態勢の確立に努めてまいりました。昭和 42 年度からは、租税教育の重要性に鑑み中学生を対象に「税の作文」募集事業がスタートしました。作文募集事業は本年度で 57 回を数え、社会的にも高い評価を得ていることは誰しも認めるところであります。

平成元年に消費税が導入され「消費税滞納の未然防止活動」は納税貯蓄組合の重要な活動となっております。

私たちは、このように社会的にも極めて有意義な活動を行っておりますが、近年、組織の硬直化が目立つようになりました。

私たちは役員、組合員が一体となって、意識改革を行い、納貯が抱えている課題を克服し、時代の要請に応える活動を展開することが肝要であります。

国家運営の要であります税、その税に対する理解者、協力者を増やすこと、これが、納税貯蓄組合の使命であります。納貯が果たす役割はますます重要になっております。

ご参会の皆様におかれましては「納税貯蓄組合は国家、社会のために活動する社会貢献団体である」ことを認識し、納貯活動に携わっている誇りを持って進んでいこうではありませんか。

結びにあたり、ご参会の皆様の益々のご健勝と事業の繁栄を心から祈念申し上げ、式辞といたします。

令和 5 年 6 月 14 日
全国納税貯蓄組合連合会
会長 飯島 賢二

大 会 宣 言

全国納税貯蓄組合連合会が誕生して 65 年、「税の期限内完納の推進」「中学生の『税についての作文』募集事業」をはじめ、各種の事業を開けし“人づくり、国づくり”的一端を担ってきた。

しかしながら、昨今の納税貯蓄組合は全国的に見ると、組織の弱体化が拡大していると言わざるを得ない。

私たちは社会に貢献する質の高い納税貯蓄組合の再生、活性化に努めいかなければならない。

そのためには、財政も人的な力も他者に依存しない自立的運営を確立することが喫緊の課題である。

全納連は 4 月 10 日を「納貯の日」と定めている。「納貯の日」は納税キャンペーン等を通して、国税、地方税当局と、地域社会と、そして、メディアとの連携を深める絶好の機会である。

また、納税貯蓄組合が開催する講演会や研修会にも、組合員以外の人にも参加を呼びかけ、納税貯蓄組合の知名度を高めることも必要である。

私たちは、「納税貯蓄組合は国民の貴重な財産」であることを認識し、国民と共に歩いていくことを宣言する。

令和 5 年 6 月 14 日
全国納税貯蓄組合連合会
創立 65 周年記念式典